

## 祭りの伝承について

村の祭りは、老若男女だれでもが何らかの形で参加したいものです。

祭りを通してぜひ考えたいことは、守るべき伝統の範囲を、自由に工夫発展させて、良い面を残し、けじめをつけて行なえば良いと思われます。

伝統の風習、形態は厳しく守り伝え、容易に妥協しないことも必要と思われます。

そのため忘れられ、埋もれがちな伝承は絶えず気に留め記録することも大事なことのようです。祭り事の意味が判らなくなっていくと、形態だけが存続するようなことになれば、行事への関心が薄くなり、いつかは消滅していくでしょう。

村の人がそれらに関心を寄せ、言い伝えを知り、行事の意味を確かめ、若い世代に伝えていかなければならないと思います。人々が加わり支持されてこそ、文化はいつその広がりや深度を持つからです。

芯（しん）となるものを守り抜けば、あとは自由奔放（じゅうほんぼう）に、時代を映して演出し、活用し、大勢で楽しめれば良いと思います。日常の鬱屈（うっくつ）を一気に発散して、村を挙げて晴れ晴れしたいものです。

自然や季節の恵みに対する謙虚な心、感謝や祈りは、日本人の捨てがたい美点です。無病息災・五穀豊穡の神への祈願は、健康を気遣い、自然崇拝の日本人の心の現われです。

日本人の精神はまだまだ祭りの中で存在しています。仁（じん・思いやり）・義（ぎ・正義感）・礼（れい・社会的節度）・智（ち・道徳的分別）・忠（ちゅう・忠誠心）・信（しん・信頼）・孝（こう・親孝行）・悌（てい・兄弟仲がいい事）・勇（ゆう・勇気）・和（わ・争わず仲が良いこと）の10徳の良いところは学びましょう。

【温故知新（おんこちしん）】という言葉がありますが、祭りはまさにその実践の場です。

古き伝統をたずね、新しい精神に目覚める場でもあります。伝統への熱い目が力強い創造を生みます。祭りはそのよき体験の機会であります。

郷土を愛し伝統を守ることも、地域の世代を超えたコミュニケーションが形成されたり、礼儀を学ぶ場にもなります。経済ばかりが優先される今日、少子化・高齢化社会の影響をもろに受ける地域の集落で、文化財の伝承が地域との親睦を生み、遊び心を目覚めさせ、地域おこしや活性化につながればと願うばかりです。

そして、小松固有の伝統行事である祭りや小松の平家浮立が維持・保全および次世代に継承できるようにありたいものです。

【温故知新（おんこちしん）】の意味

【論語】 昔のことを調べて、そこから新しい知識や見解を得ること。

「古きをたずねて新しきを知る」と同意。